

守山まるごと活性化 議事要旨

事業名：

令和2年度 まるごと活性化
ホタル・イベント推進プロジェクト 先進地研修

日時： 令和2年11月13日（金）午前9時から午後4時まで

場所： 滋賀県米原市長岡 鴨と蛍の里づくりグループ

出席者： PJ員5名+ホタルの森資料館職員3名+事務局2名

研修内容

<米原市長岡 「鴨と蛍の里づくりグループ」 代表 鹿取 和幸さん>

- ・昔、ホタルの乱獲などが多くなった際に、地元の青年団などが乱獲防止のため注意喚起を行った。
 - ・地元の小学生がホタルについて勉強を行うようになった。
 - ・災害などで一度ホタルは死滅した。
 - 復活させるため、ホタル、カワニナの養殖を行った。
 - ・地元の農家が農業を行う際の農薬で、ホタルに影響が出たので、今では優しい農薬（自然やホタルに優しい）で、地元の人は野菜を育てているため、川もきれいになり、ホタルにとって優しい環境を作れている。
 - ・地元の学生（小中学生）が川の水質の調査をしている。
 - ・カワニナを育てる上での苦労はあったのか。
 - ホタルを育てるより難易度が高い。
 - ・ホタルに地域性があるのか。
 - 地域性はあると考えられる。地域によって大きさが異なっていたり、より飛ぶ個体が多い地域や、飛ばない個体が多い地域なども存在する。
 - ・ある程度の水量がないと、ホタルは育ちにくい。
 - 米原市長岡は、伊吹山等からの流入が多いので、一年を通して一定の水量はある。
 - ・市からの補助金を使用し運営しているが、補助金のほとんどが冊子の発行代金として使用されている。
 - ・ホタル館の使用料等はどうしているのか。
 - 建物の所有者から無償で借りている。電気代等も所有者が支払ってくれている。
 - ・ホタル祭りの運営は、どこが行っているのか。
 - 別に実行委員会があるので、そちらで運営している。
 - ・現在グループの所属人数は、20名程度で常時動けるのは3名程度になっている。
 - ・ホタルが毎年飛べるようなまちづくりをするには、時間をかけて環境整備や住民等の理解を得ていくことが重要である。
 - ・住民等の理解が得られなければ、川の清掃の際も苦勞することになる。
 - 清掃の際に、ある程度の理解を得られてなければ、ホタルが陸に上がってくる際に草刈りをしてしまい、成長を妨げる可能性がある。
- ※プロジェクト員の皆さんは、興味深く実践状況や過去に実績について聞いておられました。また、自分たちの取り組み状況とを比較し改善点を見つけようと熱心に議論されていました。

